

め、直接、間接的に農薬など化学薬品の被害を受けやすく、減少が心配されている。

ウッドチャック Woodchuck

聖燭日（グラウンドホッグ・デー、二月二日）になると、ウッドチャックが長い冬眠から醒め、土の中の巣から出てくる、という言い伝えが北アメリカにある。



もし自分の影を見たら巣へ戻る。これは春の訪れが一か月以上も遅れているという証拠だ。影がなければ、外へ飛び出して活動する。春はそこまで来ている、というしるしである——。（実際は、ウッドチャックは三月まで冬眠から醒めない。）

ウッドチャックは、齧歯目リス科の、脚が短く、ずんぐりした哺乳動物で、北アメリカ東部を中心に、平地に穴を掘って生息している。かつては、馬がウッドチャックの掘った穴に落ちて脚を折ることが多く、農夫の嫌われ者であった。しかし、ウッドチャックの穴にアライグマ、キツネ、ウサギなどの毛皮動物（害虫も駆除してくれる）が住みついてくれるので、機械が馬にとって代わった今では、むしろ有益な動物となっている。

ホッキョクグマ Polar Bear

春の陽差しが北極海の氷をゆるめる頃、薄黄色の毛をしたホッキョクグマ（シロ

クマともいう）が、アザラシの巣を求めてあたりを嗅ぎ回る。アラスカ沿岸、北極諸島、グリーンランド、あるいはソ連北方の沿岸——と北極地方一帯のアザラシが、ホッキョクグマの主な獲物だ。

体重はハイイログマとならんで、陸生食肉類のうちで最も大きい。首と頭が長く、面高な顔をしている。密生した短い体毛は、冬の純白が春には黄味を帯び、夏ともなると金色に近くなる。

嗅覚が非常に鋭敏で、何マイルも先から獲物の嗅いをかぎつけたり、氷の下メートルにあるアザラシの巣を難なく見つけ出す。動作は素早いとはいえないが、けわしい氷のうねや急坂を登ったり、ハシクミから巧みに身を隠したり、水にもぐってこつそりアザラシに近づいたりするのはうまい。夏の間は海藻やコケ、スゲなどの植物も食べる。

ホッキョクグマの最大の敵は人間だ。十七世紀以降、北極地方に探検隊や捕鯨船、毛皮商人が入り込むようになってから、たくさんのホッキョクグマが殺された。飛行機や雪上車の時代になって、ホッキョクグマの狩猟はさらに進み、その生存が懸念されるようになった。

現在、ソ連やグリーンランドを含めて約二万頭強と推測されている。そのうちおよそ半数がいるカナダでは、ホッキョクグマの狩猟が厳しく制限されており、綿密な個体数調査に基づいて、年間五百頭ほどの捕獲が認められているにすぎない。国境を越えて北極地域を移動するホッキョクグマの保護には、国際的な協力が必

要。一九六五年には、カナダ、グリーンランド、ノルウェー、ソ連、米国の間で初めてホッキョクグマに関する科学会議が開かれ、六八年からは国際自然保護連盟の主導による国際チームが調査活動を続けている。

ライチョウ Ptarmigan

強風が北方カナダの荒涼としたツンドラ地帯を吹き荒れる十月ともなると、夏の間一帯を暮らしていた何百種類という鳥の姿はほとんど消えてしまう。残っているのは、ライチョウ（雷鳥）など、ほんのわずかだ。北に住む人々にとって、ライチョウは、厳しい冬の間の大切な食



糧源であり、また伴侶でもある。

ライチョウはヨーロッパ、アジア、北アメリカの北極周辺および高山に住むガンの一種で、体はずんぐりとして、尾と脚は短く、羽も短くて丸い。春と秋に羽毛が抜け変わり、脚は柔かい雪の上でも歩けるように指の先端まで羽毛が生えているのが特徴。

北米には、何百万羽というライチョウが生息している。そのほとんどは人間が近寄れないところに住んでいるが、羊の放牧や山火事などで食物（草木の新芽、

葉、果実、種子、昆虫など）が減り、生息地に影響がでているところもある。

カナダガン Canada Goose

毎春、カナダの上空をほぼV字形に編隊を組んで北上し、秋になると南下していくカナダガン。そのエレガントな姿は、季節の変化を告げる風物詩である。

カナダガンには二十以上の異種がいるが、共通しているのは黒い頭、黒い冠、黒い首、それに首すじの白い模様。

オンタリオ南部とケベック、それに大西洋沿岸の三州を除いてカナダ全国に生息し、冬はほとんどが米国やメキシコ北東で過ごす。カナダガンが特に好んで巣を作るのは、オンタリオ北部の、一面に水ゴケが生えた沼地。春にやってきたカナダガンは、そこで卵を生み、ヒナを育て、親鳥自身も羽を生え変わらせ、八月から九月になると親子揃って暖い南へ飛び立つ。

カナダガンは狩猟によって大幅に減っていたが、捕獲数の制限、生存数の把握といった調査・管理のおかげで、一九四六年から十四、五倍も増えた。

カナダオオヤマネコ Canada Lynx

長くたくましい脚、先の黒い短い尻尾、ピンと立った耳——カナダオオヤマネコは、カナダ北方樹林地帯の精悍な狩人である。夜行性できわめて警戒心が強いため、その姿を見るのはなかなか難しく、